賞状を持つのが「蛇（だ）きまくら」を制作した中村有紀さん（桑野山区）

▲真剣に取り組む有紀さん（みどりの丘）

▲受賞作品の「蛇（だ）きまくら」とみどりの丘メンバー（表彰式会場）

HighLight 今月の注目 3

蛇（だ）きまくらは、ゆび編み手芸で制作した蛇を模した３㍍もある大作

静岡県授産製品コンクールで県健康福祉部長賞を受賞！

静岡県障害者芸術祭が11月23日、静岡市の５風来館（ごふくかん）で開催された。式典では、「みどりの丘（上岸）」の中村有紀さん（桑野山）が制作したゆび編み手芸作品である「蛇（だ）きまくら」に県健康福祉部長賞（銀賞）が贈られた。

授産製品から〝頑張る姿〟を発信

静岡県授産製品コンクールは、「県内の障害福祉事業所の手作りで心温まる製品の中から、特に優れた作品や販売商品として高く評価できる製品を表彰することで、良質な製品づくりへの意欲を高め、さらなる品質向上を目指すこと」「授産製品に対する認識を広めることで障がいのある人の社会参加に関する理解と障害者福祉に関する啓発を図ること」を目的に開催されています。

作品への責任感と意欲が評価され銀賞を獲得

ゆび編み手芸を始めて7年目になる有紀さんは、靴下の廃材（製造時に出る靴下ハギレ）を材料に、座布団やリビングマットを作ってきました。

その培ったノウハウで、今年の巳年にちなみ、3㍍もある蛇を模した大作を作り上げました。

「蛇（だ）きまくら」というネーミングはもちろんのこと、遊び心あふれる作品で、有紀さんの人柄と根気強さ、意欲が感じられる作品であると評価を受け、見事銀賞に輝きました。おめでとうございました！

一口に100号と言っても、25年の歳月と全会員の努力の結晶であると語る藤田会長（写真㊦）

HighLight 今月の注目 4

創設から25年の歴史を刻む川根ペンクラブ

昭和62年創刊の「川根文芸」第100号（記念特集号）を発刊

川根ペンクラブは、第100号を12月20日に発刊。（創刊号は昭和62年の10月発刊）25年の歳月をかけ100号を発刊した背景には、継続して作品を投稿してきた会員の地域を愛する心と作品づくりへの熱意がなければ成し得ることができない。

川根にしかない文化に目を注ぎ、取り組む精神が原点

大井川の流れを中心に、その流域に生活している私たちは、この恵まれた自然の中で、安全で快適な生活を続けているわけであるが、今や、21世紀に向かって、国際化、情報化、あるいは高齢化など、さまざまな環境変化が起こりつつあり、これらの環境変化は、それぞれ相互に影響しあいながら、私たちの生活や地域を大きく変えていくことが予想される。私たちは、この川根の地に共に生き、助け合い、励まし合って生き抜いていくために、この文芸誌〝川根文芸〟を通し、川根の文化遺産の整備と掘りおこし、そして香り高い川根文化を創造していきたいと考えたものである。（創始者・鈴木利夫さんの創刊号の巻頭言より抜粋、全文は第100号に掲載されています）

創刊時からの精神を継承し、さらなる発展を目指す

次の歴史づくりに歩み始めた川根ペンクラブ。

藤田会長は「文化文芸の発展に終わりはない。より素晴らしい〝川根文芸〟として成長することを目指す」と述べられました。